

2013-14 ROTARY INTERNATIONAL DIST. 2710



ガバナー月信

Vol. 10

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2014年 4月号

SHIMONOSEKI ROTARY CLUB



Governor's Message

『雑誌月間』

2013-14年度
国際ローター第2710地区ガバナー

沖田 哲義

GOVERNOR: Tetsuyoshi Okita



地区内ロータリアンの皆さん、今日は。

今月は「雑誌月間」です。そこで、これについての私の意見
ないし感想を、以下のとおり申し述べます。

2010年版手続要覧の69頁には、以下のとおり記載されて
います。

「ロータリアンは、RI理事会の認可した32の機関雑誌のう
ち、1誌を定期購読することが義務づけられている。また、これ
らの機関雑誌は集合的にローターリー・ワールド・マガジン・プレ
ス(The Rotary World Magazine Press)として知られて
いる。主要刊行物の「ザ・ロータリアン(The Rotarian)」誌
は、RIが毎月英語で発行する雑誌であり、印刷した雑誌を郵
送で受け取るか、オンラインで電子版を読むことができる。
…ザ・ロータリアン誌の特定の記事は、そのほかの31の公式
地域雑誌にも掲載される。ローターリー・ワールド・マガジン・プレ
スは、RIの目的の推進とローターリー綱領の推進においてRI理
事会を助けるものである。雑誌はまた、ロータリアンに情報を伝
え、その意欲を高める重要なコミュニケーション手段となる。」

現時点では、1誌減って31の機関雑誌となっているよう
ですが、このうち主要刊行物のザ・ロータリアン誌を除くと、残り
の30誌は全て地域雑誌です。この地域雑誌の一つが日本で

発行されている「ローターリーの友」なのです。したがって、私
たちロータリアンは、ザ・ロータリアン誌か、又は他の地域雑誌の
1誌を定期購読しなければならないのであって、必ずしも
「ローターリーの友」を定期購読しなければならないという義務
はないのです。しかし、私たち日本人のロータリアンは、一般
的には英語よりも日本語が得意ですから、日本語のローター
リーの友を定期購読し、ローターリー・ワールド・マガジン・プレス定
期購読義務を果たしているのです。よく言われます。ロータ
リアンには3大義務がある。一つ目が会費の支払義務であり、
二つ目が例会への出席義務であり、三つ目がローターリーの友
の定期購読義務である。この三つ目の義務は、以上のような
ことを意味しているのです。

ところで、私たちは、自嘲気味に、しばしば「ローターリーの友
は読まれざるベストセラー」といいます。しかし、ローター
リー・ワールド・マガジン・プレスの定期購読義務は、購入するだけ
ではなく、「読む」義務も課せられているのです。したがって、
「積んどく(読)」だけでは、ロータリアンとしての3大義務を果
たしたことにはなりません。日本で発行される「ローターリーの
友」は、ローターリーの情報誌としては勿論のこと、教養雑誌とし
ても実に素晴らしいものだと思います。

ローターリーの友を余り読まれぬロータリアンの皆さん。私に
1時間だけ時間をください。1時間あれば隅から隅まで完全に
読み切れます。今月は雑誌月間ですから、一度試してみてください。

CONTENTS

- ガバナーメッセージ/目次 P1
- 中四国3地区合同オリエンテーション報告 P6
- ローターリー雑誌月間によせて P2
- 会員増減・出席率 P7
- G8 IM報告 P2
- 新入会員紹介 P8
- G3 IM報告 P3
- 物故者への哀悼 P8
- G1 IM報告 P4
- 文庫通信 P8
- 第6期RLI-2710 パートI報告 P5
- 奥付 P8





『雑誌月間』に寄せて

2013-14年度

国際ロータリー第2710地区 パストガバナー 田村 泰三

ロータリーの機関雑誌の購読は3大義務の1つです。ほかの2つの義務は例会出席と会費の納入であることから、ロータリーの組織を維持発展させるために重要な位置を占めていると考えられています。雑誌月間はその意義を私たちが考え直す機会を持つためと思います。

日本語の機関雑誌は「ロータリーの友」です。ロータリアンにとっては大変なじみの深い雑誌ですが、十分に活用できているかについては問題もあります。自分のことを考えると胸を張れる状態とは言えず、この原稿を書くにあたって大変苦しい思いをしています。

ロータリーの会員であることの目標は自分を磨くことであると言われています。また、いつもこのことを思い起こすように心がけておく必要があります。

ロータリー機関誌の起源は以下の通りです。初版は「THE NATIONAL ROTARIAN」として1911年1月に発刊されました。ポールハリスのRational Rotarianism と題する論文が掲載され、ロータリーの親睦と奉仕の在り方を問いかけています。雑誌はロータリーの考え方を普及させ、会員間の情報を交流させ、国際ロータリーの発展に欠くことのできないものとして機能してきました。

その後1953年より日本語の機関誌として「ロータリーの友」が発行され、日本のロータリアンにとってロータリーの雑誌として今日に至っています。ロータリアンは雑誌を通して多くの情報を得て、ロータリーを理解する機会を増やすことを期待されています。

ロータリーが発足して100年以上を経過した今日、雑誌が私たちのロータリー活動に期待通りの効果をもたらしているかどうかを考えてみると、十分であるとは言えないように思います。このような反省を促すために雑誌月間は設けられていると言えるでしょう。情報が氾濫

していると言われている中で、「ロータリーの友」の記事は自分の興味があるものに限られたものだけを読んでしまします。家族などほかの人にも読んでもらえば、興味がある記事はさらに拡大されて、自分が深く読まなかった内容についても興味を拡大することが出来ます。ロータリー・クラブの会員同士で雑誌の情報について話し合う機会を持つように心がけることも有効でしょう。

ガバナーの公式訪問のときに、雑誌の有効利用が話題になったことがあります。「ロータリーの友」は一般雑誌としても内容が豊富であり、待合室などに備えて、ロータリアン以外の人にも読んでもらえるようにしたらどうであろうかということでした。大変良いことで、私たちが読んだ後、このような利用法を実行することに賛成をしたものでした。

情報交換は活字によるものからソーシャルネットワークと呼ばれる技法に拡大されてきました。パソコンなどの電子機器を駆使して、Facebook、YouTube、Twitter、などが加わってきています。雑誌はこのような新しい技術にも競合する必要に迫られています。

「ロータリーの友」の編集には日本全国の地区から選出された委員も加わっています。精力的に記事を評価し読者の興味を引くような努力が続けられています。あふれるほどある情報中で、読者の興味を呼ぶような記事を作ることは容易ではありません。多岐にわたる情報には有用なものもあれば意味のないものさらには有害なものさえ沢山あります。これらを識別し取捨選択する能力も必要です。大変な努力が積み上げられています。

雑誌月間にあたり、雑誌を読むこと、記事を書いて参加することを強く意識づけることが必要であると感じています。



グループ8 IM報告

2013-14年度

国際ロータリー第2710地区 グループ8 ガバナー補佐 蔵田 憲

グループ8のIMは、2月16日(日)午後1時よりグランラッセ東広島で登録者256名、当日参加者165名と多くのご参加をいただき開催しました。

沖田ガバナーのガバナー信条「奉仕活動を見直そう、新しい奉仕活動への挑戦」に則って、テーマを「ロータ

リークラブができる各々の地域の活性化事業」としました。第1部は、グループ内7クラブのパネリストの皆様、それぞれのクラブがこれまで行ってきた地域活動を振り返り、今後何ができるか、あるいは何をすべきかを考える機会にさせていただく時間とし、第2部では、それぞれ



の発表を受け、広島大学大学院社会科学部 教授川崎信文先生に、私たちの活動評価・地域活性化の方向性について有意義なご教示をいただきました。

コーディネーター 應原立吉(東広島RC)、アドバイザー 川崎信文教授、パネリスト 神田賢治(呉RC)、黒田哲生(呉東RC)、佐々木正博(西条RC)、久保則昭(呉南RC)、小畠章二(江田島RC)、為岡進(東広島21RC)、立川宏治(東広島RC)のメンバーより、「取り組みの成果と感動」の熱心な発表がございました。

一例として「ロータリアンが学んでいるように思う」「学生も楽しかったとの感想」「新世代を育成していこう」「合同で何かできないかを考えている」「ペイ・フォワードの話」「子供たちから底知れぬエネルギーを与えていただいた」「地域ニーズの掘り出し調査をクラブで行いたい」「新たな市の動きに関わっていきたい」「ニーズの発見が一番の問題だ」等々講演では、川崎教授より依頼を受けてロータリークラブについていろいろ調べてみたが、「幅広く有意義な活動をされているがよく判らない」「ロータリーの存在感がうすい」「今の若者は、生身の大人ときちゃんと対話する経験が乏しい人が多い」「行政の限界がある(需要が供給能力を上回る)」公共サービスの多様な担い手として、①行政サービス その外側が②公共サービス(NPO・市民協働) その外側が③民間サービス(企業・個人)があり、RCの活動分野は②と③の接点を補う社会奉仕の

部分であろう。自分たちが考える価値でやっていけばいいと思います。と貴重なお話をいただきました。

講評で、沖田ガバナーより「すばらしいIMでした。街づくり、街おこしをまだまだやるべきではないか。」との激励をいただき充実感を感じました。

懇親会では、西条酒の飲み比べをしながら、BGM軽音楽に包まれ、和やかな楽しいふれあいの時間を過ごすことができました。皆様、ありがとうございました。



グループ3 IM報告

2013-14年度

国際ロータリー第2710地区 グループ3 ガバナー補佐 入交 和則

お陰様で、G3のIMが2月22日無事終了することができました。先ず以てグループ内の会長を始めとする全てのロータリアンに感謝を申し上げます。IMのテーマは「地域から広げよう奉仕の輪」を掲げ、一般公開として市内高校生にもご案内をさせていただきました。内容は2部構成で第1部は福島県立相馬高校放送局の皆さんにお越し頂きまして、福島の現状そして「今、つたえたいこと(仮)」と題したDVD等を交えた活動報告をして頂きました。以前G3でセブンforワンというプロジェクトで、福島県原町中央ロータリークラブさんと一緒になって南相馬の子どもたちに、放射線を監視する個人用の線量計を送った経緯もありまして、原町中央RCさんにご相談したことで第1部が実現できました。この場をお借り致しまして、厚く御礼申し上げる次第でございます。また、第2部は山口市内を中心に奉仕等でご活躍されておられる団体様の代表にお越しを頂きまして、IMのテーマである

「地域から広げよう奉仕の輪」についてのパネルディスカッションを行いました。何故ライオンズクラブさんやソロ



プチミストさんを始めとする他の団体さんをパネラーにお迎えしたかということ、我々ロータリーの活動はロータリアンが発想しロータリーの理念に基づいて活動している訳ですが、それ自体理想通りで、素晴らしいことと考えますが、たまには他団体の活動をご披露頂きまして我々ロータリアンは今からどういう奉仕活動を行えばいいかということ、今一度立ち止まってみることも大切ではないかという考えで実施させて頂きました。またこれと並行して、福島の高校生と地元山口の高校生同士の交流会を別会場に企画をさせて頂きました。この交流会は、予定時間が経過しても、盛り上がったままで

あったという報告を頂きました。第1部についてですが、東日本大震災から3年が経過するとき、同じ大和民族でありながら時間の経過と距離に比例して、我々は時として薄れかけていることも、否めない事実です。これを風化してはいけないうと、昨年7月に山口県に発生した豪雨災害も然りですが、手を差し伸べることがあれば、今後も個人や団体等での実施も必要でしょうし、ロータリーでないと出来ないものも今後あるかも知れませんが、IMでの成果として、その時のお役にいくらかでも立てれば有難いです。また、



第2部では夫々の奉仕団体様の東日本大震災の被災地への支援活動についてお話頂き、そして日頃の活動内容についても詳しく伺い致しました。結論までには至りませんが、各団体相互の情報交換は致しようという前向きなお話があり、大変恐縮ですが次年度の渋谷ガバナー補佐に、お荷物にならないような形でバトンタッチが出来れば幸いと存じます。末尾ながら、当日の運営に携わった森本会長を始めとする山口南RCのメンバーに感謝致します。



グループ1 IM報告

2013-14年度

国際ロータリー第2710地区 グループ1 ガバナー補佐 紺箭 素彦

2710地区グループ1のIMの報告をさせていただきます。グループ1は下関RC、下関東RC、長門RC、油谷湾RC、下関西RC、下関北RCの7つのRCから成ります。2014年2月23日(日)に下関シーモールホールとパレスにおいて、166名の参加のもと開催されました。

シーモールホールにて開会行事、講演会、パネルディスカッション、閉会行事が開催されました。

第1部は講演会です。伊賀財団委員長による「夢計画の総括と今後の展望」についてのお話です。今年度および来年度にむけてどんな事業に対して補助金が出るのか、どんな事業はもらえないのか、どうしたらもらえるのかをお話頂きました。実のところなかなか厳しいお話でした。もう一つの狙いは財団アレルギーの方や財団に無関心の方に、もう一度財団に目を向けてもらおうとの思いでありました。まずまずの反応だったと思います。



第2部はパネルディスカッションです。パネラーは各クラブの会長さん(長門RCは幹事さん)にお願いしました。コーディネーターは何分初めてのことであり不安だったのですが私が行きました。まず一巡目として自己紹介とクラブの紹介をしていただきました。会長さんの味のあるキャラクターのせいか和やかな雰囲気になりました。二巡目は「我がクラブの自慢の奉仕活動」について話して頂きました。財団による補助金を頂いたりっぱな事業のお話や、何年にもわたる独自の継続事業のお話を頂きました。インターアクト、ローターアクト、RCC、RYLAとまさにロータリーの事業も

発表されました。三巡目は「我がクラブの自慢の親睦活動」についてお話を頂きました。それぞれに特色ある親睦活動や同好会の事も話されました。みなさん興味深く聞かれていたようです。

第3部はシーモールパレスにて待ちに待った懇親会です。「今日2月23日はロータリーの誕生日です。ハッピーバースディ」という沖田ガバナーの乾杯のご発声で始まりました。アトラクションとして「アラブ文化を訪ねて」という題でベリーダンスを10名のダンサーにて踊って頂きました。ドキドキの企画でしたが、みなさん大変よろこんで頂いたようです。こうして最後に「手につないで」でみなさんと大きな輪を作り友情と連帯感を味わいながらの閉会となりました。

沖田ガバナー、伊賀財団委員長、クラブ会長さんのご協力と、参加された素晴らしいロータリアンのみなさんのおかげで素晴らしいIMになったと思います。心から感謝申し上げます。そして、「紺箭ガバナー補佐を男にする」という合言葉のもと、全力で協力してくれた我が下関北RCのみなさん本当にありがとうございました。





第6期RLI-2710 パート1報告

2014-15 年度

国際ロータリー 第2710地区 地区研修リーダー 前田 茂

ロータリー・リーダーシップ研究会(以下RLI)は我々国際ロータリー(以下RI)第2710地区は第6期となりました。

RLIは1992年にアメリカ・ニュージャージー州(第7510地区)にて元RI理事のデビット・リンネット氏の提案で始められた研修組織です。1994年にはニュージャージー州でさらに3つの地区が参加して多地区の活動になり、その後1998年には31,32ゾーン(アメリカ北東部、中部太平洋岸、カナダの一部)まで広がります。そしてこのプロジェクトは2001年の国際協議会のスピーチの中で取り上げられ、指導力成功談としてRIウェブサイトに掲示され2003年3月「ニュース・バスケット」の記事となりました。RI理事会はRIの多地区合同奉仕プロジェクトとして承認し活動は次第に発展し、草の根のロータリー研修組織として全世界のロータリー地域に波及していきます。2008年のRotary Newsの中でクリフォード・ダクターマン元RI会長は「ロータリーの世界で最も注目しなければならないことは、ロータリー創始後100年を経て社会構造も変化し、何よりも人や社会に対する意識が変わってきていること。特に事業や職業の世界が激変していることを考慮すべきだ」と述べています。ロータリー活動のあらゆる面で、複雑で矛盾した現象を呈していることを指摘しています。異なった価値観や現象のギャップを埋めるには、私たちはその要因である根本的な問題点を整理し、十分話し合いロータリー世界の理解を深めない限り、今後のロータリーの発展は望めないと思われます。『ロータリー・リーダーシップ研究会に参加しよう!』ロータリーの友 2008年12月号 当時RLI日本支部委員長、2004-06年RI理事 南園義一氏投稿文引用)

我地区RI第2710地区は2009年1月18日にディスカッションリーダー研修を実施、本格的にRLIを研修方法としてとり入れたのです。そして今年で第6期パート1が



2014年2月2日に開催されました。今回は地区内60クラブ81名の出席者のもと盛況に開催できましたことは過去の経験の継続と先輩の意識が強く作用したおかげです。昨年はディスカッションリーダー3名とアドバイザー1名で分科会を進行していましたが、今年はディスカッションリーダー(次年度AG)2名、アドバイザー(PG)1名という布陣で分科会を対応することになりました。南園義一元RI理事でRLI日本支部顧問をはじめとする日本支部関係、川妻PG、諏訪PG、沖田Gをはじめとする地区関係者の支援、そして第6期RLIタスクフォース5名の元AGの皆様により設営準備、2回のディスカッションリーダー研修とつづいてパート1を終了することができました。

午前10時から開会行事をはじめ、分科会1～6までそれぞれ45分間、先出し質問に沿って意見



をのべ評価表記入、会場移動を10分で行うたいへんな1日であったと思います。最後に総評で南園PG、諏訪PGから日本の34地区の中でも先陣をきって取り組み、モチベーションを高め定着してきている。これから日本流RLIを確立していこう、一人一人のロータリアンとしての成長とロータリー観の確立を願うものとする締めくくられました。

第6期の予定を記しておきます。

Part1 2014年2月2日(日)

国際会議場

Part2 2014年6月8日(日)

広島都市学園大学

Part3 及び卒後研修 2014年9月20日(土)

ホテルグランヴィア広島

将来ロータリー活動に指導力を発揮して活躍される方々に多数参加していただき、ロータリー理解が深化しロータリアン個々のモチベーションが向上しますことを念じ報告とさせていただきます。



コミュニケーションスキルってなんだ？

2013-14年度

国際ロータリー第2710地区 青少年交換委員長 上野 宗則

先の2月22日-23日、中四国3地区の青少年交換委員会が協同し、青少年交換プログラムオリエンテーションを開催した。この合同オリエンテーションは10年以上に渡って行われている毎年恒例の行事で、各地区から現在来日中の海外からの留学生やすでに留学から帰国した日本人学生、これから派遣される日本人の高校生、そして、青少年交換プログラムにかかわるロータリアンらが一堂に会し、交友を深める絶好の機会となっている。

当たり前のことだが、青少年交換にはさまざまなルールがあり、その代表的なものが4Dルールである。4Dとはドリンク（酒）、ドラッグ、（シングル）デート、ドライブを指し、このルールを破ると即刻強制送還されるなどペナルティが課せられる。未熟な高校生が一年間海外留学に行くのだから、一時の誘惑や危険から身を守るように厳しく指導するのが大人の務めである。心配をあげればキリがなく、これまでの研修では、講師の先生が留学で想定される問題や事例をあげ、そのための準備や心構えを事こまかくカンヅメ状態で伝えるものであった。

しかし、すでに帰国した学生たちにこの研修についての感想を求めると、「なにを教えられたのか覚えていない」、「眠らないのに必死だった」、「校長先生の話を聞いているようだった」などなど、こちらの親心が子どもたちにまったく届いておらず、留学にもいかされていないようだった。他地区の人々との交流を除いては、せっかくの機会が長年のうちに形骸化し、新鮮度を失っていた。

そこで、今年度は2710地区が当番のため、思い切って内容を一新することにした。留学に向けてのこまかい研修は各地区にお願いすることにして、3地区が集まる意味を深めるために、参加学生ひとりひとりに大勢の前でプレゼンテーションを行う機会を与え、コミュニケーションスキルの向上をはかることを今回の主たるテーマとした。留学を希望する学生にその動機を尋ねると、そのほとんどが「語学の習得」、「コミュニケーション能力の向上」、「困難に立ち向かう挑戦」をあげるのだが、わたしは以前から、語学力＝コミュニケーション力との勘違いがあることが気がかりだったことも理由にはある。

コミュニケーションとはなにか。広辞苑によれば、「社会生活を営む人間の間に行われる、知覚・感情・思考の伝達。言語・文字・その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする」とあり、さらに「動物個体間での身振りや音声・匂いなどによる情報の伝達」とある。言葉や文字はコミュニケーションのための重要な要素であることは間違いないのだが、コミュニケーションのひとつの手段に過ぎない。他の辞書には次のようにも書いている。「情報の

伝達、連絡、通信の意だけではなく、意思の疎通、心の通い合いという意でも使われる」と。

留学とは、自分の育ったコミュニティとは違うはじめての場所に身を置き、その文化や生活習慣を学ぶ経験である。と同時に、はじめて出会う人々に自分を受け入れてもらうために、自らの素性、いわば見えない心の内を明かさなければならない。言葉だけでなく身振り手振りなど、持てる能力のすべてを使って、自らの心の内を知らせなければならないのだ。自分の心の内を明かすには、まずは己を知らなければならない。一般に、プレゼンテーションではパワーポイントなどを利用して、写真や文字を紹介しながら言葉を使い思いを伝えるものだが、それらを準備するには、まずは自分の心に向き合う作業が必要になる。そして、実際のプレゼンでは、写真を見せながら話すだけではなく、声の調子、身振りや手振り、表情、容姿、姿勢、雰囲気など、自分を伝えられる情報はたくさんある。事実、今回の研修では留学経験を振り返りながら涙する者もいて、その姿に心動かされ涙を流すロータリアンもいた。

しかし、伝える以上に大切なのは、話を聴くことである。相手を受け入れ、見えない心の内を読み解くには、目の前にいる人の姿を注視して、一生懸命耳を傾けなければならない。じっと聴くこともコミュニケーションに重要な能力なのだ。コミュニケーションとは、出会う人々相互が心の内を明かしあい、ふれあい、認め合い、つながり合う作業であり、それらに必要な能力のすべてがコミュニケーションスキルと言えるだろう。

今回のオリエンテーションは、ファシリテーターの大楠正子先生のお人柄と熱意が会全体にひろがって、参加学生のコミュニケーション力が存分に発揮された素晴らしい会であったように思う。参加学生の心の内が「いかに眠らないか必死だった」かどうかはうかがい知ることはできないが、長い研修の間にひとりとして眠る者はなく、みな目を丸くしながら話を聴いてくれたことを何より嬉しく思っている。そして、今回の研修が留学という人生の大きなチャレンジに役立ってくれればと願っている。



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



国際ロータリー第2710地区 2013-14年度 74RCの会員増減・出席率

2014年2月度

グループ	クラブ名	例会数	出席率 (%)		会員数					
			当月	平均	年度初 (7/1)	当 月		本 年 度		
						末日	内女性	入会者	退会者	増減
グループ1	長 門	3	86.08	91.5	32	31	5	1	2	-1
	下 関	4	70.21	80.97	47	47	2	3	3	0
	下関中央	5	86.15	81.2	30	27	4	1	4	-3
	下 関 東	4	88.44	86.01	46	49	0	6	3	3
	下 関 北	3	90.43	92.86	40	42	0	3	1	2
	下 関 西	4	78.38	82.05	38	37	1	1	2	-1
	油 谷 湾	4	100	99.52	13	12	0	0	1	-1
	計		85.67	87.73	246	245	12	15	16	-1
グループ2	萩	4	91.77	93.24	51	52	0	2	1	1
	萩 東	3	100	99.52	22	21	0	0	1	-1
	美 祢	4	72.32	76.45	26	25	0	1	2	-1
	小 野 田	4	89.63	85.43	41	41	2	2	2	0
	宇 部	4	91.04	89.23	49	53	2	6	2	4
	宇 部 東	4	57.14	69.65	17	16	2	0	1	-1
	宇 部 西	3	92.85	91.88	53	52	1	3	4	-1
	計		84.96	86.49	259	260	7	14	13	1
グループ3	防 府	3	84.9	88.76	51	53	0	5	3	2
	防 府 北	4	73.61	79.5	20	19	2	2	3	-1
	防 府 南	4	84.46	80.87	33	37	8	4	0	4
	山 口	4	96.85	95.06	55	57	3	3	1	2
	山口県央	3	97.06	95.7	32	34	1	2	0	2
	山 口 南	4	92.56	86.85	38	39	4	2	1	1
	計		88.24	87.79	229	239	18	18	8	10
グループ4	光	4	91.28	91.49	48	46	0	1	3	-2
	周 南 西	3	96.12	94.26	43	46	5	3	0	3
	徳 山	4	91.89	95.06	45	49	1	6	2	4
	徳山セントラル	4	85.49	86.47	31	30	1	1	2	-1
	徳 山 東	4	94.67	95.93	53	53	0	0	0	0
グループ5	計		91.89	92.64	220	224	7	11	7	4
	岩 国	4	71.44	77.11	62	62	0	4	4	0
	岩国中央	4	92.03	89.77	40	41	3	2	1	1
	岩 国 西	4	87.59	85.47	56	55	3	3	4	-1
	柳 井	3	100	99.58	33	34	2	5	4	1
グループ6	柳井西	4	100	98.42	28	29	2	3	2	1
	計		90.21	90.07	219	221	10	17	15	2
	広 島	3	99.13	99.43	106	119	0	14	1	13
	広島安芸	3	97.44	98	39	40	2	1	0	1
	広島安佐	4	80.95	86.19	20	21	1	2	1	1
グループ7	広島東	4	98.28	98.33	90	92	4	5	3	2
	広島北	4	100	100	80	85	0	5	0	5
	広島陵北	4	99.05	98.93	46	55	3	9	0	9
	大 竹	3	85.3	90.27	31	34	0	3	0	3
	計		94.31	95.88	412	446	10	39	5	34

グループ	クラブ名	例会数	出席率 (%)		会員数					
			当月	平均	年度初 (7/1)	当 月		本 年 度		
						末日	内女性	入会者	退会者	増減
グループ7	広島中央	3	100	99.95	69	70	8	5	4	1
	広島廿日市	4	90.54	90.71	37	37	1	0	0	0
	広島城南	4	98.69	98.57	55	57	2	2	0	2
	広 島 南	4	99.42	99.57	89	91	0	2	0	2
	広島東南	3	100	100	86	85	9	3	4	-1
	広島西南	3	100	100	57	63	4	8	2	6
	広 島 西	4	100	100	78	79	0	3	2	1
	計		98.38	98.4	471	482	24	23	12	11
グループ8	江 田 島	4	97.37	92.12	19	19	0	2	2	0
	東 広 島	3	100	99.71	30	31	2	1	0	1
	東広島21	4	83.82	81.95	18	17	4	0	1	-1
	呉	4	90.71	91.1	68	73	1	6	1	5
	呉 東	4	97.26	92.8	33	28	0	1	6	-5
	呉 南	3	97.73	92.26	55	54	4	2	3	-1
	西 条	4	100	100	40	41	1	1	0	1
	計		95.27	92.85	263	263	12	13	13	0
グループ9	広島空港	4	81.58	84.44	21	20	3	0	1	-1
	因 島	4	84.27	87.39	24	27	1	3	0	3
	三 原	3	95.24	93.91	63	65	2	2	0	2
	尾 道	4	83.16	85.41	70	74	3	5	1	4
	尾道東	3	92.1	90.87	50	50	0	1	1	0
	瀬戸田	4	87.5	87.5	7	8	0	1	0	1
	竹 原	4	90.15	89.99	35	33	4	0	2	-2
	計		87.71	88.5	270	277	13	12	5	7
グループ10	府 中	3	85.72	84.46	33	32	0	0	1	-1
	福 山	4	95.93	96.14	74	82	0	12	4	8
	福 山 東	4	90.8	90.38	50	50	3	2	2	0
	福山丸之内	4	96.97	97.89	34	33	1	0	1	-1
	鞆の浦	3	86.96	81.61	27	23	0	0	4	-4
	福山REC2710	4	97.32	97.95	27	28	4	4	3	1
	計		92.28	91.41	245	248	8	18	15	3
	福山赤坂	4	79.83	75.54	42	44	4	2	0	2
グループ11	福 山 北	4	97.83	97.13	46	47	0	3	2	1
	福 山 南	3	83.36	83.44	58	62	2	4	0	4
	福 山 西	3	91.67	94.15	38	40	2	2	0	2
	松 永	3	91.84	90.68	46	49	2	3	0	3
	計		88.91	88.19	230	242	10	14	2	12
グループ12	吉 舎	3	92.16	97.48	17	17	0	0	0	0
	三 次	4	69.7	76.55	40	39	0	1	2	-1
	三次中央	4	90.84	93.07	44	44	5	0	0	0
	庄 原	3	83.7	90.45	35	35	4	1	1	0
	東 城	4	84.52	86.31	21	21	1	1	1	0
第2710地区計	計		84.18	88.77	157	156	10	3	4	-1
	第2710地区計		89.88	90.47	3221	3303	141	197	115	82

新入会員紹介



加藤 秀憲
宇部RC
2014年2月13日
パレット製造販売



水田 徹郎
山口南RC
2014年1月10日
生命保険



香川 行信
周南西RC
2014年2月4日
仏教



大竹 浩美
柳井RC
2014年2月4日
有機合成薬品製造



三村 直雅
広島陵北RC
2014年2月19日
筆製造販売



久保井 邦宏
広島陵北RC
2014年2月19日
建築設計



吉田 壽美枝
広島陵北RC
2014年2月19日
ファッションコーディネーター



山國 豊
広島西南RC
2014年2月25日
内装工事業



松永 竜
江田島RC
2014年2月13日
スーパーストア



中崎 誠
呉RC
2014年2月6日
乾物配布



堂下 大地
呉RC
2014年2月6日
信用金庫



中野 誠
呉RC
2014年2月13日
弁護士



幸泉 正流
尾道RC
2013年11月15日
外国為替銀行



吉川 純弘
福山RC
2014年2月3日
配管工事



平野 喜隆
福山RC
2014年2月3日
旅行業



田中 智
福山RC
2014年2月24日
百貨店



赤木 邦江
福山東RC
2014年1月8日
教育キャリアコンサルタント



橋本 慎吾
福山赤坂RC
2014年2月17日
輸入車販売



橋本 行正
松永RC
2014年1月11日
不動産斡旋



新入会員氏名
所属RC
入会日
職業分類

謹んで追悼の意を表します



広島東南RC
故 児玉 治殿
2014年2月19日ご逝去(享年68歳)
■ロータリー歴
2012-13年 副会長
ボールハリスフェロー
米山功労者(第2回マルチプル)
■職業分類
外科医

文庫 通信

318号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。ホームページの「ロータリー文庫について」欄もご覧ください。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介をいたします。

■最近の資料から

魅力的なクラブ創り	北 清治	2013 9p (D.2780地区大会報告書)
『ロータリーに魅せられて』ロータリーは新会員とともに	坂本 俊雄	2014 10p (D.2710地区大会特集号)
変わりつつあるロータリー	江崎 柳節	2013 7p (D.2800地区大会記念誌)
『ロータリーの目的』とRI戦略計画	南園 義一	2013 8p (D.2700地区大会の記録)
国際ロータリーの動向とロータリー財団	三木 明	2013 5p (第35回青少年指導者育成セミナー報告書)
過去を内省し、新しきものを統合していこう ーロータリー創立100周年後の歩みで感じたこと	黒田 正宏	2013 51p
ポリオが地球から消える日「世界の子どもたちとの約束を果たそう」	北山 輝夫	2013 2p (D.2830地区大会記録誌)
ポリオとの戦いー根絶間近のインドから	ロケシュ・グプタ	2013 5p (D.2830地区大会記録誌)
トルコの識字プロジェクト支援 / ロータリーへの目覚め	重田政信 / 清 章司	2013 1p D.2840 (私のロータリーモメント)

[上記申込先: ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15黒龍芝公園ビル3階

TEL: (03) 3433-6456 FAX: (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp> 開館: 午前10時~午後5時 休館: 土・日・祝祭日

お詫びと 訂正

ガバナー月信vol.9(3月号) P8「新入会員紹介」に以下の通り誤りがございましたので、お詫びして訂正申し上げます。

福山赤坂RC 新入会員 (誤) 河原 敏彰 ⇒ (正) 川原 敏彰

国際ロータリー第2710地区事務局

所在地 〒732-0822 広島市南区松原町1-5 ホテルグランヴィア広島6F

TEL: 082-506-0055 FAX: 082-263-2323 E-mail: info@ri2710.com URL: <http://ri2710.com/>